

東京十勝池田会の最近の活動

東京十勝池田会会長 清水 洋 二



わが「東京十勝池田会」(会員約180名)は、平成23年に創立40周年を迎えましたが、歴代役員の方々の努力によって、今日までつづがな活動を継続して参りました。

最近の活動として、池田町商工会提供の物産品販売への協力活動と原発事故の被災地である福島県(会津地方)への会員の親睦を兼ねた応援ツアーを実施しました。

会報30号に寄せて

東京帯広会会長 野 呂 綾 子



北海道ふるさと会連合会会員の皆様には益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

貴連合会におかれては、各「ふるさと会」の連携、交流に多大な成果を上げられ、会員として心強く思っています。そうした中、貴連合会会報創刊30号を迎えられましたこと、お祝い申し上げます。毎回郷土情報記事等楽しみに拝読しており、これからも益々充実した情報誌として期待しています。

東京帯広会では、帯広市関係並びに地元会員企業等多数のご協賛をいただき、年2回(5月、10月)懇親会を開催、郷土と在京会員の交流・親睦を深めています。十勝のふるさと会の方にも参加いただいておりますこと、お礼申し上げます。今後ともよろしくご指導ください。郷土の繁栄と貴連合会並びに「ふるさと会」が益々発展されるよう念願しています。

はじめまして「いたばし道人会」です

いたばし北海道人会 伊 塚 清

私たちは道内各地から不安と希望を抱いて津軽海峡を渡り、内地(東京)に生活の場を求めて板橋の地に根を張った者たちの集まりです。発足のきっかけは有志たちが飲み食べをして故郷の自慢話ができる場を作った仲間を昭和55年に発足させて今日に至っております。

当初は区内在住の道産子会員だけでしたが現在は区外の道産子や何らかで北海道に縁のある方々(北海道好き人間)も増えており、郷土愛と地元愛や人間愛の輪が重なっております。

会の運営は初代世話場ウメ会長(故人)の発足精神を受け継いで高橋正憲会長(板橋区会

議員)と多田恒男幹事長(ライフ印刷(株)社長)の冤年トリオを中心に行っております。

定期行事は総会・定例会議・新年会・暑気払い・泊旅行で懇親の部が大変でふるさとでは発せられない方言も出たりして(道産子のみしか解らない)。

最大イベントは「板橋区民まつり」のふるさと物産展(10月第3週土日開催)の出店です。区民の皆さんには隠れた優れた道産品の販売をして喜ばれております(いつも完売です)。

ふるさと会のみならずが区民まつりに求められたときには北海道産でお声をかけて下さい。生ビールと焼きそばをサービスさせていただきますので宜しくお願い致します。

新米役員のひとりごと

東京本別会 横 川 義 洋



東京本別会の立ち上げの時より、会の発展に尽力されてきた先輩役員から、「若手に後事を託す」とバトンを渡され一年が過ぎた。

故郷を離れ、東京へ出てきてもうすぐ半世紀になるという我々が、若手と呼ばれるには正直抵抗があるが、そんなことより、新米役員にとって難しい問題は、真に若い後継者を発掘し、どのように会の継承を図るかにある。他市町村のパワー溢れる役員さんと接する度に、考え込んでしまう。

とは言いつつも、東京本別会がふるさと連合会の一員であることの意義を踏まえ、会員一人ひとりの故郷を思う心を集約し、どうすればふるさとに貢献できるかを考えながら、ひと踏ん張りしなければと思っている。今年もまた、産直フェアが盛大に開かれた。

「在京端野会」のあゆみ

在京端野会幹事会



私たちは、毎年1回、北見市端野総合支所(旧・端野町役場)の方々をお迎えし、それぞれの分野で活躍されている会員の皆さまとともに、「我がふるさと・端野」を想い、語り合います。また、その絆を固く結ぶ場として、「在京端野会」を開催することを恒例として、

既にご存知のとおり、平成18年3月5日をもって、1市3町(北見市・端野町・常呂町・留辺蘂町)が合併し、オホーツクに面した広大な「新・北見市」として誕生すると同時に、「我がふるさと・端野」は、「北見市端野町」となりました。

当会は、昭和42年・秋の発足以来、4代に亘る町長さんの薫陶・激励を頂戴しながら、早や45年の歳月が過ぎ去りとしています。現在では200余名の会員に対し、連絡を発達している状況ですが、会員の年齢層が高齢化

していることが、昨今の懸念事項となっております。私たちが幹事会は、端野総合支所の協力を得ながら、各会員の親兄弟・同級生・友人・親戚等を核とした若い年代層の発掘に努めたいと思っております。

その一環として、本年開催の「在京端野会」において、前・端野会長(浅利寛氏の勇退に伴い、新・会長富塚喜二氏を選出し、また、幹事会も一新し、郷土愛に結ばれた会員の皆様が集い、「端野会」にしたいと願っています。

北海道ふるさと会連合会会報

編集・印刷・発送

株式会社 双文社

〒03-0003 321-2 (渡辺)